

# 当会会員同士のカップル 第1号が誕生しました!



当会会員同士のカップル第1号が誕生しました。富田淳会員(昭和62年度)と藤野淑恵会員(同)の写真です。すでに結婚を交わし、12月7日、都内のホテルで挙式する予定になっています。

会員が帰郷した際に富田会員を両親に引き合わせるなど、家族ぐるみの付き合いから愛情を深め、めでたくゴールインに漕ぎつけることになりました。

藤野会員はフアッション関係の雑誌の編集者をしており、結婚後も仕事を続け、キャリアウーマンを目指すとのこと。新居は都内にある日銀社宅になる予定。

富田会員は日銀に入行し、最初の人事異動で下関支店に配属されました。偶然にも、藤野会員の実家が下関にあり、東京で就職した同

## ☆宿案内

今年度の夏期合宿を左記により行います。ふるってご参加下さい。

①日時 9月7、16日(9泊10日)  
②場所 群馬県利根郡片品村東小川一五「民宿くらた」TEL0278-1581-24四七  
※問い合わせ、申し込みはマネジャー土屋敬まで、TEL 03-3333-0331 八六〇五(部室) 03-3333-8484(一六九一)(自宅)

# 川名監督がフエンスシング協会理事に就任



川名宏美監督が日本フエンスシング協会の理事に就任しました。会長推せん理事の枠が空いたため、東京都協会が監督を推し、今春の理事会で承認されたものです。あとは全国評議員会(開催日時未定)にその旨を報告するという事務的な手続きが残っていますが、公認コーチ育成担当として、すでに理事としての活動を

## 新人紹介

今年度は、残念ながら特別選抜の選手は確保できませんでした。しかし、一、二学年に男女六人の新人、しかも全員経験者が入部したので、一丸となってエースのいない分をカバーしてもらいます。

- ①氏名 ②出身校 ③学部学年 ④戦績 ⑤一口コメント



①天野祐介(あまの・ゆうすけ) ②神奈川県立厚木 ③一文2年④関東大会(団体)



①田島誠也(たじま・ともや) ②東京・早稲田③法2年④学年別個人3位、新人戦優勝(団体) 関東選抜出場⑤力を合わせて部を盛り上げたいと思います。



①山本直人(やまもと・)



①保谷公司(ほうや・こうじ) ②東京・早稲田③教育1年④学年別個人優勝、関東選抜出場⑤左利きの利点を生かしたい。



①高田明子(たかだ・あきこ) ②東京・吉祥女子③一文1年④学年別個人3位、新人戦団体2位、関東選抜4位⑤女子部が盛んになるよう横山さんと協力していきます。



①横山美弥子(よこやま・みやこ) ②神奈川県立上鶴間③人間科学1年④関東大会個人3位、インターハイ個人2回戦、関東大会団体3位⑤女子部員が少ないのでもっと増やしたいと思っています。

始めております。これは文部省が音頭をとって実施を急いでいる公認指導者制度のフエンスシング版で、指導育成計画書の作成、実地試験の実施などを担当するもので、体協加盟団体の半数近くはすでに実施に踏み切り、何人かの公認コーチを確保しています。

川名監督の話 理事の件は、

先に成瀬が就任するはずだったけど、いろいろ曲折があつてこちらに回ってきてしまいました。早稲田からも協会に人材を送り込む必要があるとの声は早くから出ていたので、とりあえず先兵となつて後進の道を切り開きます。

# 稲光会報

平成3年7月15日発行  
編集 早稲田大学稲光会  
発行 北原輝久  
題字 滝口宏  
印刷 柳王友社  
第14巻第20号

1ページ...出野主将特別表彰  
2・3ページ...リーグ戦入替戦詳報  
4ページ...川名監督協会理事に就任

# 出野主将が特別表彰

## 全日本選手権フルール個人優勝、世界選手権代表に



リーグ戦開会式で、全日本優勝を特別に表彰され、樋口宏会長(左)から表彰状を受ける出野主将

残念ながら入替戦はまたも拡大に敗れ、念願の一部復帰はなりません(詳細は2、3面を参照)。そこで今回は出野晴信主将(人間科学部4年)の朗報で一面を作ってみました。出野主将は9月、石川県で行われた全日本選手権のフルール男子個人に優勝、さらに世界選手権代表にもなり、不振早大にあって一人孤軍奮闘、おおいにワセダの名を高める活躍してくれました。

決勝戦の相手は永野(中大4年)。前年度のチャンピオンで、実力ナンバーワンと目される強豪です。全日本2連覇の野望に燃えて出野と対決。しかし出野の動きは鋭く、常に先手をとって動き、10

オンは昭和29年に竹村晃会員がエペを制して以来、実に36年ぶり2人目の快挙、フルールでは初めてということになります。

続いて行われた世界選手権最終選考会(4月14日、東京・厚生年金会館体育館)では、12人の最終候補選手による総当たり戦が行われ、出野は9勝2敗で2位。文句なしに代表の座を獲得したものです。

お1位はライバルの永野でした。今や日本のフエンスング界は出野・永野時代になったといってもよいでしょう。世界選手権は7月13日から20日まで、ブダペスト(ハンガリー)で行われました。

出野主将は3年前、前橋育英高校から推せん入学で入部したのですが、その年の5月、ソウル五輪最終選考

18歳と日本フエンスング史上若くオリリンピック選手となり、華々しくデビューしたものです。しかし2、3年生時は壁につき当たり、全日本選手権でも2回戦落ちするなど低迷を続けました。高校生選手から大学生選手への脱皮がスムーズにいかなかったからです。

そこで本人が考えたのは海外武者修業。今年の2月から3月にかけて1か月間、統一ドイツ国のボンにフエンスング留学をしました。これには1年後輩の藤倉剛(教育学部3年)も同行しましたが、市内のスポーツクラブに寝泊まりしてフエンスングの練習に明け暮れる毎日。その間に2度、ヨーロッパで行われた国際大会に出場するなどして腕を磨いてきました。

全日本での優勝は、帰国して3日後のこと。まさに留学の成果といつてよいでしょう。この調子で活躍し、来年のバルセロナ五輪には日本選手団の中心的存在になって欲しいものです。

### ◆(出野晴信主将の話)ドイツ留学

に際しては、稲光会の皆様から過分なご援助をいただき、心から感謝しております。お陰様で全日本で勝ち、ご期待にそうすることができたとホッとしております。しかし私個人のことより、主将としてチームを1部復帰へと導くことができなかったのが残念でなりません。先輩の皆様方にも深くおわび申し上げます。

